



小嶋 克文 議員

教員の働き方改革 について

問 教員の長時間勤務が問題になっている。4月28日に文科省が公立小中学校の勤務実態調査を公表した。月80時間超の残業が2~6カ月連続で、脳・心疾患の発症との関連が強いといわ

れるが、本市の実態は。

答 平成28年度11月の調査で、小学校5校の調査対象正規教員158人中、時間外の在校時間が80時間超の人数は16人（約10%）。100時間超の人数は14人（約9%）。中学校2校では、88人中80時間超の人数は21人（約24%）。100時間超の人数は22人（25%）でした。

問 勤務時間削減にどのように取り組んでいるか。

答 全職員が19時に退校する日を週に1回、困難であれば月に1回程度設けるよう、市教委から依頼している。その他、会議の時間短縮、各種報告書の簡略化、校務支援システムの活用、

行事の精選や内容の変更などに取り組んでいる。

問 教員の長時間勤務の主要因が、部活動の担当です。今年の4月から従来の外部指導者とは別に、部活の顧問にも就くことができ、さらには大会等に単独で生徒を引率できる「部活動指導員」が創設されたが、導入の取り組みは。

答 保護者等への連絡、生徒指導に係る対応、事故が発生した場合の現場対応など、学校教育の一環として行なわれる部活動は、教員が行なうべき職務であり、この考えに立って、従来の外部指導者のさらなる充実を目指していきたい。

問 従来の外部指導者の導入状況は。

答 高浜中学校では6種目で9名、南中学校では3種目で5名、合計14名が活動されている。指導種目は、野球、陸上、バスケットボール、卓球、剣道、ソフトボールである。

問 愛知県は4月から、中学校は週2日、必ず部活動を休みとすることを義務付けましたが、市内の両中学校の取り組みは。

答 両中学校とも、月曜日と木曜日の帰り及び土日は、どちらか1日を休みとしている。また、生徒の健康面に配慮し、朝の部活を全面的に見直す方向で、両中学校と話し合っている。



内藤 とし子 議員

教育行政 (就学支援の拡充) について

問 就学援助の中に入学準備金があるが、入学準備金を入学前に前倒しして支給しなければ、父母負担が大きい。国も日本共産党の国会議員の追求「援助を必要

な時期に速やかな支給が行えるように、金額を増額の通知」も出しました。そこで、高浜市は、平成29年度はどうするのか。

答 単価は増額になり、平成29年度は6月支給になります。

問 平成29年度から年度当初に支給しても良いと通知が来ているのに、なぜ支給できないのか。

答 支給するために、該当家庭の前々年度の収入状況などを調査しなければなりません。

問 入学前の1日入学など、学校に来るチャンスもあるので、タイミングを計って入学準備金の必要な家庭を調査すればよいのでは。

答 通知の趣旨を考慮し、先行実施している自治体を参考に課題を整理し、実施に向けて検討したい。

高浜小学校等整備事業(建て替え)問題について

問 設計図を見ると、車両の出入口が1箇所である。200台の車両がイベントなどで出入りすることになるが、西側からが中心となっており、安全対策はどうするのか。

答 大きなイベントとして鬼みちまつりがあり、高浜小学校が拠点となっているが、道路が大渋滞する等の状況は発生しておらず、学校が関わる学芸会や演奏会は、これまでと同様、教職員を中心に誘導に当たり、車両の出入りや歩行者の安全確保に努めていく。

問 市民への説明会について、モデルとして建て替えを行うのであれば、特に市民向けに説明が必要になると考えるがどうか。

答 通学している保護者の皆さんの関心が高いと考え、保護者向けの説明会を数回設定し、市民の方にはシンポジウムを行いました。